

建設業の 2024 年問題、 慢性的な人材不足の難局を乗り切ろう

～ (一社)全さく協中央支部 第 49 回通常総会開催される ～

一般社団法人全国さく井協会中央支部は令和 5 年 5 月 11 日、千葉市中央区の京成ホテルミラマーレで第 49 回通常総会を開催し、令和 4 年度事業報告と決算、令和 5 年度事業計画及び予算を承認した。

総会の冒頭、島田恭宏支部長は「中央支部は、令和 4 年度全さく協の活動「地下水利用設計管理技術者」、国土交通省認定資格「登録さく井基幹技能者」、全さく協が国交省より受託した「深井戸データベース更新業務（実存調査）」等に協力し、協会活動を支えてきた。新型コロナも落ち着き、通常の活動ができるようになるので、令和 5 年度も全さく協のコアとして、協会活動を支えていこう」と挨拶し、会員の団結を呼びかけた。

今年には役員改選が行われ、ドリコ(株)が新たに役員に加わり、新支部長に(株)日さくの若林直樹氏が選出され、承認された。若林新支部長は就任にあたり「地下水利用設計管理技術者の創設や登録さく井基幹技能者認定の実現など、協会活動に進展がみられる。皆さんが力を発揮し、成果が出ていると感じる。また、各社共通の課題として、“建設



挨拶する若林直樹新支部長

業 2024 年問題”と呼ばれる時間外労働の上限規制と慢性的な人材不足がある。これらの問題に皆と一丸となって取り組み、この難局を乗り切っていきたい」と抱負を述べた。

総会終了後、営業研修会が行われ、(株)日本海水、(株)栗本鐵工所、(株)ナガオカ、(株)クリステンセン・マイカイ、ジオテクサービス(株)の 5 社が自社の誇る技術・製品を紹介した。



総会会場

講演会は「令和に生きる明治の技術」と題し、伝統的な井戸掘り工法の上総掘りの仕組みや歴史、現状について、上総掘り技術伝承研究会の藤代かおる副会長が説明された。

総会終了後、51名の参加で懇親会を開催し、若林新支部長の発声で乾杯し、歓談に入った。三年振りの懇親会は大いに盛り上がり、瞬く間に終了時刻を迎えた。

最後に中央支部の益々の発展を祈念し、島田恭宏前支部長の手締めで散会とした。

参加された皆様、おつかれさまでした。
厚く感謝申し上げます。



懇親会会場